第4期三田市教育振興基本計画検討委員会（第1回）会議録（案）

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 令和 7 年 12 月 19 日（金）　午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで |
| 開 催 場 所 | 三田市役所南分館6階601会議室 |
| 出 席 委 員 | 吉水委員長、仲矢副委員長、<br>大西委員、尾上委員、下中委員、齊藤委員、谷口委員、川原委員、藤井委員、<br>小山委員、山口委員、久後委員 |
| 欠 席 委 員 | ― |
| 事務局出席者 | 加嶋教育長、山本学校教育部長、井上学校教育部次長、<br>久保学校教育部次長、上島子ども・未来部次長、榎本市民生活部次長、<br>井上教育総務課長、上野学校再編課長、西浦学校教育課長、<br>藤田地域クラブ推進課長、吉田教育支援課主幹、出藏教育研修所長、<br>宮城学校給食課長、藤田子ども育成課長、神影幼児教育振興課長、<br>斉藤教育総務課副課長、上仲教育総務課事務職員 |
| 傍　聴　人 | ― |

≪次　第≫

1.開　会

2.教育長あいさつ

3.委員紹介

4.事務局職員紹介

5.委員長及び副委員長の選任

6.正副委員長あいさつ

7.諮　問

8.意見交換（フリートーク）

「これからの三田の教育に関して大切に思うこと」

9.議　事

（1）計画の基本的事項　資料1

（2）教育を取り巻く国や県の動向　資料2

（3）三田市の現状　資料3・資料4

（4）アンケート結果　資料5

10.次回予定

第2回　令和8年3月3日（火）10：00～開催予定

11.閉　会

※ご確認用のため、発言者の名前を記載しています。
　HP 公開時、発言者は委員長、副委員長、委員の表記となります。

| | |
|---|---|
| １．　開会あいさつ | |
| 事務局（司会） | ただいまから「第１回三田市教育振興基本計画検討委員会」を開会させていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。本日の司会を担当させていただきます三田市教育委員会　学校教育部次長の井上です。当会議の委員長が決定するまでの間、よろしくお願いします。<br>初めに、会議の公開についてご説明します。当委員会は、三田市情報公開条例の規定に基づいて公開させていただきます。また、傍聴につきましては、「附属機関等の会議の傍聴要綱」に基づき可能となっております。現在はお見えになっていませんが、この後いらっしゃればご入室いただくこととなります。<br>本日の会議資料の確認をさせていただきます。次第、委員名簿、そして資料１～５、別冊として国・県それぞれの教育振興基本計画、令和7年度三田の教育（指導の重点）、令和7年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（令和6年度事務対象）、事前配布済資料として「第3期さんだっ子かがやき教育プラン（三田市教育振興基本計画）」の冊子がございます。当日資料として、「会議附属資料」一式。「諮問書の写し」、「委嘱状」、「座席表」を机上に置いております。ご確認お願いいたします。不足等がございませんか。 |
| ２．　教育長あいさつ | |
| 事務局（司会） | それでは、開会にあたりまして、加嶋教育長よりごあいさつ申しあげます。 |
| 教育長 | ただいま紹介に預かりました、三田市教育長の加嶋と申します。私は今年の３月に教育長に就任させていただき、現在で9か月になります。教育振興基本計画の策定にあたり、委員の皆さまからご意見をいただきたいということでお集まりいただきました。事務局からご説明、お願いをさせていただいたところ、皆さま快諾いただき、１２月の暮れというお忙しい時期ですが、お集まりいただいたこと心より感謝申しあげます。<br>冒頭のご挨拶ということで、三田市の現状や概略をご紹介します。三田市は１９５８年（昭和３３年）に市制施行され、もうすぐ７０年を迎えます。面積は約２１０㎢で東西に１９．３㎞、南北に１７．８㎞ となっており、北には丹波篠山、南には神戸、東には宝塚や猪名川、西には加東や三木という、いわゆる兵庫五国のうち、丹波・播磨・摂津の三国の接合点がこの三田です。東西南北どちらに行くにも便利で、大事なポイントだと感じています。人口については現在１０万６千人をきっており、１０万５千人台を推移している状況です。ご持参いただいた「三田の教育」という緑の冊子をご覧いただくと、三田市の現状を記載しています。本教育委員会は学校教育部を所管しており、公立の小学校、中学校、特別支援 |

| | |
|---|---|
| | 学校が全部で29校あります。また、三田市立の認定こども園、幼稚園を合わせますと全部で34校園となります。園児・児童・生徒数は約8,800名、教職員は約730名となっています。人口推移につきましては、全国的に人口減となっている中で、三田市も子どもの数は減少しています。なお、冊子の43ページには各学校の敷地面積や運動場などがあり、右の44ページが人口の変化となっています。子どもの数は、最も多い平成10年度をピークに減少傾向になっています。しかしながら、三田市には恵まれた環境があると感じています。1つ目は、34校園以外に、私立の幼稚園・保育園・認定こども園、私立の中学、高等学校、県立高校・特別支援学校、そして大学、短大など多岐にわたった教育機関が三田市にあるということです。また、兵庫県立人と自然の博物館や有馬富士自然学習センター、三田市野外活動センターなどの社会教育施設もあり、教育機関との連携が近い距離でできます。2つ目は、三田は自然に恵まれており、北部の学校では地元の方の協力を得ながら、子どもたちが農地に出て三田米やウド、豆などの三田ならではの農産物を栽培する自然体験ができます。それから、3つ目は、先ほど申したようにこの教育委員会は小中学校が所管ですが、例えば幼稚園であれば市長部局である「子ども・未来部」があり、「こうみん未来塾」事業も「子ども・未来部」で担当しています。川本幸民というのは三田市で日本初のビールの醸造をされた方として有名ですが、その名前にちなんだ「こうみん未来塾」という事業は、高等学校や社会教育施設、NPOなどとの連携など、市長部局が主となり地域との連携をすすめています。美術展や絵のコンクールなどもいろいろとございますので、地域の様々な団体の力を借りて、子どもたちのニーズにあった様々な体験ができるということが、三田市の特色だと自負しています。<br>　教育振興基本計画につきましては、教育基本法の17条2項に基づいて策定するものです。第1期を平成 24 年、そして第2期を平成29年、現行の第3期を令和4年に策定しており、今期が第4期となります。現在の第3期計画は、令和8年までの5か年を実施期間ということで、現在も教育施策を進めています。その間、少子化あるいは人口減少が進み、グローバル化、地球規模での課題が山積しています。そして、私たちを取り巻く環境も変化しています。最近では熊の目撃情報や、熱中症など、私たちを取り巻く様々な環境が変化するとともに、あわせて少子化が課題となっています。学校の規模についても、いわゆる小規模校が増えています。あわせて、いじめへの対応や不登校対策、部活動における地域展開など、新たな学校運営の節目に差し掛かっていると認識しています。市の財政も厳しい状況ですが、何とか未来に活躍する子どもたちを育成したいという想いで、今回の第4期教育振興基本計画の策定に向けて取り組んでまいりたいと考えています。<br>　この計画策定にあたって、私の方から3つのお願いがございます。1つ目は、これから三田市の現状をご説明いたしますが、三田市ならではの振興計画、三 |

| | |
|---|---|
| | 田市だからできる、あるいは三田市ならできるのではないか、といった計画の内容をご検討いただきたいと思います。2つ目は、実効性のあるもの。来年検討をして、令和9年度からのスタートになるかと思いますが、実効性のあるものを検討いただきたいと思います。3つ目は分かりやすさです。今回、冊子の方もできる限り市民の方にご覧いただいて、三田市の教育がこうだ、ということをお示ししたいと思っています。この3点をポイントとして、皆さまにはぜひお願いしたいと思っています。皆さまのお力をお借りし、三田の教育がより魅力的になりますように、お力添えいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。 |
| 3.　委員紹介 | |
| 事務局（司会） | それでは、当検討委員会にご参加をいただきます委員の皆さまをご紹介したいと思います。本来であれば各委員に自己紹介をしていただければよいのですが、後ほど、フリートークの時間も設けておりますので、事務局のほうからご紹介させていただきます。また、このご紹介を持ちまして、「委員委嘱」に代えさせていただきます。なお、委嘱状につきましては、あらかじめ席に置かせていただいておりますので、ご確認の程お願いします。それでは、次第裏面の委員名簿をご覧ください。当該委員会は学識者・社会教育関係者・市民の方々という幅広い分野の方々で組織されております。<br><br>（委員の紹介） |
| 4.　事務局職員紹介 | |
| 事務局（司会） | 事務局につきましては、教育長、学校教育部、市民生活部及び子ども・未来部の関係職員、また計画策定を支援いただいている株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所のご担当者様が出席しております。<br><br>会議の成立のご報告です。本会議につきましては、「三田市教育振興基本計画検討委員会規則第3条第2項」の規定により、過半数の出席で成立となります。本日は皆様ご出席をいただいておりますので、会議が成立していることを、ここでご報告いたします。 |
| 5.　委員長及び副委員長の選任 | |
| 事務局（司会） | それでは、委員長・副委員長の選出に移らせていただきます。三田市教育振興基本計画検討委員会規則第2条第2項の規定によりますと、「委員長及び副委員長は委員の互選によって定める」となっておりますが、いかがでしょうか。差支えなければ、事務局の方から提案させていただいてもよろしいでしょうか。<br><br>（異議なし） |

| | |
|---|---|
| | 委員長として吉水委員に、また副委員長に仲矢委員をご提案いたします。賛成いただけます方は、拍手をお願いいたします。<br><br>（一同、拍手）<br><br>それでは、吉水委員長、仲矢副委員長は、席の移動をお願いします。 |
| 6.　正副委員長あいさつ | |
| 事務局（司会） | ここで、委員長よりごあいさつをお願いします。 |
| 委員長 | 私は今年４月より関西学院大学の教育学部に勤務していますが、元々は兵庫教育大学に20年ほど勤めていまして、もう20年ほど兵庫県の教育に関わらせていただいています。三田市とのご縁はそこまであったわけでもないのですが、今回委員にということでご指名いただきまして、ありがとうございます。<br>学識経験者という枠組みになっていて、教育学の研究をしているのですが、地域の教育というものに関することはローカルな知識が重要だと思っています。そういった声を反映できるような形で会議を進められればと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。 |
| 副委員長 | 私は、大阪教育大学に勤務しています。今回、副委員長に任命いただき光栄です。教育長からお話があったように、三田市のこの数年の教育基本を考える上で、三田市ならでは、地元に通じているということ、また目まぐるしく環境が変わっていく中で、想定するのは難しいかもしれませんが、実効性のあるものを提案していくということ、そして私たち自身が十分に理解をして、学校の先生方や子どもたち、市民の皆さんに分かりやすいと納得いただけるものが大事かと思っています。皆さまのご協力のもと、実現できればと思っています。よろしくお願いします。 |
| 7.　諮問 | |
| 事務局（司会） | 諮問に移らせていただきます。教育委員会より、検討委員会へ諮問をさせていただきます。諮問内容につきましては、机上に諮問書の写しを置かせていただいておりますので、ご確認いただきたいと思います。<br><br>（諮問書の手交） |
| 事務局（司会） | 委員の皆さま方よろしくお願いします。それでは、以降の進行は委員長にお任せしますので、準備ができ次第よろしくお願いします。 |

| | |
|---|---|
| 委員長 | 三田市教育委員会より、計画策定に関する調査審議の諮問をいただきました。限られた委員会の中ということですが、委員の皆さんのご意見や、事務局の提案も十分議論しながら、未来ある三田市の教育ビジョンを示していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。 |
| ８．　意見交換（フリートーク）～これからの三田の教育に関して大切に思うこと～ | |
| 委員長 | 「意見交換（フリートーク）」に移ります。本日が、委員会の第１回目ということで、意見交換に入る前に、本計画策定の趣旨や位置づけ、また当会議の役割を事務局より説明をお願いいたします。<br><br>（事務局による説明） |
| 委員長 | 意見交換（フリートーク）に移りたいと思います。各委員の皆さまの今後の三田の教育に対する思いや関心事を共有し、以降の検討委員会の議論へとつなげていきたいと思います。ここからは、フリートークということで、各委員がこれからの三田の教育に関して「大切に思うこと」などを自由にご発言いただきたいと思います。自己紹介も含めて、皆さま１人ずつご発言いただきたく思います。先ほども申しましたように、三田のことを良く分かっていないので、こちらから質問をさせていただくこともあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。 |
| 委員 | 私は、神戸学院大学人文学部に勤めています。明石市と淡路市で小学校の教員を１８年ほど勤めた後に、大学教員として９年間京都のノートルダム女子大学に勤めており、現在は神戸学院大学に変わって２年目になります。その間、兵庫教育大学大学院で学んでおり、その際に委員長から直接指導をいただいたわけではないのですが、論文の副査をしていただいたというご縁もあり、心強く思っています。<br>三田市とのご縁は、大学教員になって現在で１１年ほどになるのですが、当初から三田市の小中学校の校内研究等のお手伝いに呼んでいただく機会がありました。元々の研究仲間である教員が三田におり、そのご縁でさまざまな学校の校長先生や教員と関わりを持たせていただいて、お呼びいただいている状況です。例えば、上野台中学校や藍中学校、ゆりのき台中学校などにも行かせていただきました。今年は狭間小学校に年間３回ほど呼んでいただいていて、狭間中学校区の中高一貫教育の研修会にもお呼びいただいて、三田市の小中学校の先生方ともご縁をたくさんいただいています。その印象として、今回の計画に関連するところでは、三田市の先生方は、小学校・中学校に関わらず子どもたちにどう力をつけるか、どう子どもたちと共にいい授業を作り上げていくかということに関して熱心に取り組む方が多いと思います。中学校は教科の専門性がありますので、校内で一緒に研究するということは難しいのですが、私が関わら |

| | |
|---|---|
| | せていただいた学校ではその壁を乗り越えて、先生同士が子どもたちと向き合って「美術の授業のときはこうだよ」「社会の授業のときはこうだよ」と、子どもたち 1 人 1 人を見ながら議論をされていて、素晴らしいなと思いました。最近は、年齢層の問題でベテランと若手の間を繋ぐ人材、年齢層の先生が少ないのですが、三田市も私が見ている限りでは、特に小学校を中心にそのような傾向は感じます。三田の良いものをどう若い人たちに引き継いでいくか、また若い先生が持っている力をどう育んで、伸ばしていく環境をつくるかというところが、三田の教育の発展や子どもたちの成長には欠かすことができないのだろうなと感じています。私としては、この件について今回の計画に反映できればと考えています。 |
| 委員長 | ぜひ委員の皆さまから、お聞きになられたいことがありましたら、ご質問ください。私のゼミ生も何人か三田市で教員をしているのですが、熱心な教員だと思います。 |
| 委員 | 私は三田で生まれて55年、このまま三田市民であり続けると思いますが、市内で子どもも3人育てており、ここにおられる先生方は私の子どもの顔も分かると思い、いろいろとご迷惑をおかけして頭が上がりません。長女は兵庫教育大学に行きましたので、現在は三田市外で小学校の先生をしています。私がここにお呼びいただいたのは、幼稚園と中学校でPTA会長をしましたので、その経験からお話させていただくためだと思っています。私はどちらのPTA会長も楽しませていただきました。<br>会長をしていて感じたことは、今の保護者は両極端で、全く関わらないという方と、当たったら楽しめる方がいらっしゃって、本当に両極端になっていると思います。その楽しめない方に、いかに子育てを楽しんでいただけるかを色々と提案できればと思いますので、よろしくお願いします。 |
| 委員長 | PTAはなくなっているところなどもある中で、三田市は盛んにやっていますね。 |
| 委員 | 私は、ボランティアコーディネーターをしています。PTAについては、三田市内でも形をなくしているところもあり、新しい形を模索しています。昨日、私の小学校でも会議をしていたところ、やはりPTAを抜けたいという話が出てきました。私は 12 年ほど前にPTAの代表をしていたのですが、その時すでにその問題は大きくなっていたので、いつその話題が出てもいいように準備をしていたのですが、実際に話題となり驚きながら聞いていました。 |
| 委員 | コロナでその動きが加速したと思います。学校行事の見直しが起こった際に、 |

| | |
|---|---|
| | 子ども目線ではなく大人目線で、大変だから色んなことをやめてしまおうという小中学校が多かったです。 |
| 委員長 | 保護者の方がどのように学校に関わっていくのかということは大きな課題ですし、私も 20 年ほど前にPTA会長をしていましたが、一生懸命に関わろうと思っていても、仕事の都合や社会の様子も変わってしまいます。そのような中で、皆さんがうまく学校に関われるようになるためのご提案もいただけると思います。 |
| 委員 | 小学1年生と6年生の2人の子どもの母です。出産するまでは理学療法士として、いわゆるリハビリの先生として病院に勤務していました。出産後はそちらを辞め、HSCアドバイザーをしています。HSCは発達障害とも違うのですが、5人に1人はいると言われている人一倍敏感な子のことを知ってもらうための講演会活動などを行っています。保護者の方や、三田市内の小学校や幼稚園の先生方の研修などにも数回ですが呼んでいただいています。<br>私の関心事としては、三田市の先生方には本当にお世話になっていますが、いつ寝ているのか、絶対にお仕事を持って帰っているのだろうということが、私にも子どもを通して伝わるくらいの仕事量だと思います。こういった先生方がオーバーワークになって休職しなければならなくなることがよくあるということを目の当たりにし、そこを例えば保護者や行政の方で支えられればという理想を持って、応募させていただきました。また、不登校のことに関しても、不登校の子どもをどうケアしていくのかというのは、ここ数年、三田市でもとても考えてくださっているのは伝わるのですが、それでも増え続けている不登校の人数を何とかストップできないかと考えています。そのため、この場で自分の意見を出し、教育のプロの意見をお聞きできると嬉しく思っています。私は教育のプロではありませんが、少しでも三田市の子どもたちの力になれればと思っています。よろしくお願いします。 |
| 委員長 | 先ほどお話したように、教育学を研究しているような学識経験者の方々とは当然持っている知識が違っていて、多様な知識を組み合わせることで今まで見えてこなかったことや良くなかったことが徐々に縮小していくようなイメージになれば良いかと感じています。<br>先生方の働き方改革ですね。人手不足の業界も多いので、学校に限った話ではないのかもしれませんが。私も大学教員時代の前は中学校の教員だったのですが、一律に時間を減らせば良いかというとそうではなく、先生方にはやりたい仕事もあるように感じています。やりたい仕事ができるような形で、オーバーワークにならないようにというのが理想だと思うのですが、そのような良い方法がないかと思います。不登校の問題なども同じです。先ほど教育長からも「実 |

| | |
|---|---|
| | 効性があるもの」ということもありましたので、思っていることを発言していただきながら、できそうなこと難しそうなことを皆さんで考えられればと思います。 |
| 委員 | 私は、中学校で校長を務めています。私は平成2年から三田市にお世話になっています。校長としては今の中学校で3年目を迎えており、その前は別の中学校で2年間校長をしていました。三田市でずっとお世話になっていますが、三田市全体としては、教育環境は良いと感じています。私は三田市が地元ではありませんが、設備や環境が素晴らしいと思います。しかし、一人一人を見たときに、不登校や学力などは改善点や課題があると思っています。<br>また中学校の部活動に関して、ここ数年の大きな変化は地域展開だと思います。来年度の8月からほとんどの部活動がなくなり、地域展開することになりますが、過渡期のため生徒も保護者も混乱しており、できる限り丁寧に説明していく必要があると感じています。この部活動の地域展開については、運動部だけではなく一部の文化部も同様です。放課後の時間が空くということになると、文化系の活動においては、今までの文化部のような活動だけではなく、三田市の特色としてこうみん未来塾などがあるので、そのような三田市ならではのものを考えても良いのかと思います。例えば、学習クラブ、寺子屋クラブのようなものがあっても良いのかと思います。しかし、先ほどの教職員の働き方改革の観点からも、こういった取組に教職員が関わりすぎてしまうと、何のための地域展開かとなってしまうため、そのような部分では地域ボランティアや行政とも連携しながら、三田市ならではの取組ができればと思っています。 |
| 委員長 | 部活動の地域展開のその後をどうするか、という問題ですね。そこに三田らしさを出せるのではないかというお話でしたが、その通りだと思いました。学力テストの結果なども資料で拝見していますが、全国、兵庫県、三田市と全体で見た場合と、個々に見た場合に関して、特に先生方は個々の方が気になっているのだと思います。その辺りのデータの使い方や、データに基づいた対応の仕方なども、三田市の特色をより一層出せるのではないかと思います。 |
| 委員 | 軟式野球を小学生に教えているのですが、保護者の方から「今どうなっているの？」と聞かれても、答えづらい展開にしかなっていないです。もう少しわかりやすく保護者に説明できる方法はないかと思いながら色んなことを考えていますが、中学校で軟式野球をやってくれている人に対して、伝えたいことがあってもチラシにはなかなか書けません。それをどのように説明するのかと思いながら見ています。計画に載せることは難しいと思うので、先ほどの文化部の話も合わせて、教育方針にどう展開していくのかを考えてみたいと思います。 |
| 委員長 | 来年の夏から地域展開するにあたって、どのように、どこまで現段階で関わっ |

| | |
|---|---|
| | ていけばよいのか、どのように関われると打ち出して良いのかということがあまり分かっていないということですか？ |
| 委員 | 表現の仕方が難しいのですが、今まで先生方が行っていたことを地域にすべて展開するのか。例えば、進路の問題が出てきます。野球でも、高校の先生が見学される時などに、地域の人が対応できるのかというと、地域の人はそこまで責任を持てないという話も出るので、その辺りは先生方も参加できるのか、どのように絡められるかが今後の課題だと思います。 |
| 委員長 | どのように責任を分担できるのかということですね。既に教育委員会事務局でも検討を進めているかと思いますが、それが上手く伝わっていないというようなお話でしょうか？ |
| 委員 | 私は子どもが大きくなったのですが、子ども食堂の子どもたちなどでは、部活動がなくなることを知らない子どももおり、家庭内での情報格差が起こっていることを直近で経験しました。地域の方々が、部活がなくなることを説明し、保護者から説明を受けておらずびっくりすることもありました。実際に、子どもがいらっしゃる委員はどのように思われますか？ |
| 委員 | 学校から地域クラブに移行しますというお手紙は何度もいただいています。また、デジタルでの案内も学校から配信されており、それも同じ内容ではなく、毎回新しい情報が更新されています。私個人の話になりますが、新しい環境に慣れるのに時間がかかるタイプの子ですので、体験ができると知ると、中学生になる前にさせるようにしています。他の子はどうか分からないですが、私は学校からの配信などはよくいただいていると思います。しかしながら、息子に話を聞くと部活動の話はほとんどなく、中学校のことで話題になるといえば、私立高校に進むのか地域の公立の学校にするのかという話がメインのようで、部活動の話題はほとんど出ないと言っていました。 |
| 委員長 | 教育委員会からは何度も連絡がいっていると思います。度々連絡はされていますが、先生と地域の責任の分担や高校からのお誘いなど、地域の方がどこまで関わるのかといった細かいことは心配事として挙がっているのではないかと思います。そういったこともこれからクリアになっていくと思いますが、地域の方としては今後引き受けていくことになりますので、情報はできる限り早めに必要となるかと思います。その辺りも検討できればと思います。 |
| 委員 | 私は小学校で校長を務めています。本校は小規模校で、全校生が６０人、１学年が１０名程度の学校です。小規模校には良さがたくさんあります。しかし、 |

| | |
|---|---|
| | 三田市全体として、学校規模の適正化が大きなポイントと考えています。小規模校の課題としては、多様性のある学びが難しいということがあります。小規模校の校長同士で話をしている中で、子どもたちの自主性や社会性を伸ばしていくことが難しいという話をしたことがありました。私たちの中学校区では、不登校の子どもも増えています。固定した関係性の中で、適応力や自主性を伸ばしていくということが大きな課題になっています。そうした課題を背景に、現在、三田市の方で再編統合についても検討いただいているものと考えています。<br>　もちろん課題解決のため、学校現場でも様々な取組をしています。例えば、学校を超えて一緒に授業をしていくことや、小学校でも教科担任制や学年の担任制を進めるなど考えられます。不登校対策については、サポートルームや子どものサポーターなど、さまざまな手段を講じながら取り組んでいます。現場としても小規模化をはじめとした学校課題に幅広に取り組んでいきたいと思っています。<br>　また、中教審でも論点整理が示されていますが、「人生の舵取りをする力」「好きを育み、得意を伸ばす」という方向性が出ています。子どもたちが夢に向かって頑張れる状況を作っていくということは、現場としても大切にしていきたいと思っています。本校でもプログラミングやICTを活用した情報活用能力を育成していく授業づくりを目指して取り組んでいます。小さな学校ですので、中学校に行くと多くの友だちの中でうまくやってけるのだろうかというような不安をいだく子どもも多いのですが、「自分はプログラミングができる」「タイピングは負けない」など、学校によって特色があると思いますが、子どもたちの自信を育む、好きや得意を伸ばしていくような取組を、それぞれの学校で展開できるような、それを応援していただけるような計画になればと考えています。また、先ほどの教員の働き方改革の話です。教職員向けアンケートでも働き方改革に対する関心が高い訳ですが、教職員だけではなく、地域の方々、保護者の方々も同じように関心をお持ちいただいていることを嬉しく思っています。先日も学校運営協議会で地域の方とお話をする中で、先生方が働きやすい環境をつくるために地域としても協力したいというご意見が多くあり、心強く思っていました。こうした機運は、教育委員会も保護者の皆さんに教職員の働き方改革が教育の質の向上に繋がることを紹介いただいていることも関係していると考えており、ありがたく思っています。次期計画の中でも、そのような方向性を示していただくとともに、学校としてもさらなる改善に取り組んでいきたいと思います。 |
| 委員長 | 　私が3月まで勤めていた兵庫教育大学では、小規模校などに特化した授業がなかったのですが、やはり課題だろうということで、そういった授業を教職の授業として作り、対応しようとなっています。またコミュニティ・スクールについてですが、三田市はどの程度の割合でコミュニティ・スクールになっているのでしょうか？ |

| | |
|---|---|
| 事務局 | 三田市では全校でコミュニティ・スクールとなっています。 |
| 委員長 | 多様性については、兵庫教育大学では1学年160人ほどの学生数だったのに対し、私学に勤め多くの学生を見ていると、やはりダイバーシティの度合いが違うなと実感しています。「これまで話には聞いていたのだけれど」というような教育課題が目の前に広がっているというイメージになります。一方で、小規模校ならではの良さもありますので、地域に応じた形で学校を運営できることが良いかと思っています。 |
| 委員 | 私は、特別支援学校で校長を務めています。特別支援学校は11年前に設立された三田市で唯一の特別支援学校で、市内の公立校の中では一番新しい学校です。特別支援学校ができた経緯として、三田市には共に学ぶ、共生の理念があり、障がいの有無に関わらず共に学ぶことを大切にしていこうということで進んできました。そのため、特別支援学校を作らず、特別支援学級のセンター校方式という運営体制を取っていました。障害のある子どもたちが地域の学校の特別支援学級で学ぶことが一般的ですが、重度と言われる子どもたちはセンター校に三田市内から校区外通学をし、特別支援教育を受けていました。医療的なケアが必要な子どもも通うため、看護師の配置もしていただきました。また、知的障害の子どもや自閉症の子どもも通っていました。そのような形で、同世代の子どもたちが日々同じ場で学び、交流及び共同学習を大切にしていこうということでやってきましたが、特別支援学校が開校する数年前頃から、センター校に通う子どもの増加と、重度化ということがありました。そのため、子どもたちの安全を確保した受け入れ態勢が限界となり、11年前に特別支援学校が開校しました。<br>特別支援学校は、肢体不自由の子どもたちの特別支援学校となっております。三田市には県立上野ヶ原特別支援学校がありますので、知的障害の子どもたち、重度と言われる子どもたちはそちらで学ぶことで、役割を分けながら本校が開校しました。本校は小学部と中学部・高等部がそれぞれ別の場所にあります。特別支援学校と言いましても1つの校舎にすべてがあるわけではなく、小学部は小学校の校舎内にあります。また中学部と高等部につきましては、中学校の校舎内にあり、三田市は併設型と言われる特別支援学校を作りました。そのねらいは、先ほども申しあげた「共に学ぶ」ということです。同じ場で同じ世代の子どもたちが共に学べる環境を大切にするために、そのような運営となりました。私は現在、この特別支援学校の校長を務めて4年目になります。校長をする前も同じ特別支援学校で教諭として子どもたちの教育に関わっていましたが、特別支援学校の子どもたちが小学校の子どもたちと交流及び共同学習を何気ない日常の中でできているという、インクルーシブ教育システムとしては素晴ら |

| | |
|---|---|
| | しい仕組みになっていると思います。言葉では言い表しにくいのですが、互いに日々触れ合い、理解し合っており、そこに教職員がさらに関係や理解を深めるように狙いをもって教育を施していくということの積み重ねができるところは、本当に良いシステムだと思っています。<br>　第４期教育振興基本計画では、やはり「共に学ぶ」という視点を大事にし、これまで三田市が積み上げてきたものを、さらに深めていくということを大切にしたいと思います。キーワードとしては多様性、公平性、そして包摂性の3つの視点が大切かと思っています。多様性、公平性という観点では、色んな特性のある子どもたちがいるのが当たり前で、その中で子どもたちの特性や障がいの程度に合わせて合理的な配慮を行うことで、子どもたちが共に学べる環境を整えていくということです。また、包摂性という観点では、色んな子どもたちと共に学ぶ、排除しないということです。共に学ぶ環境を作っていくということが、特に現在、求められているのではないかと思います。 |
| 委員長 | 　DE＆I（※）というのは学校教育ではもちろん、一般企業も進んでおり、DE＆Iの研修などは企業で行われているものがかなり進んでいるイメージです。そのようなことも参照しながら、共に学ぶということを進められればと思います。<br><br>（※）Diversity（多様性）、Equity（公平/公正性）、Inclusion（包括）の3つを合わせた言葉。多様な背景や特性を持つ個人が平等に尊重され、参加できる環境のこと。 |
| 委員 | 　私は、認定こども園の園長です。幼稚園に勤務をして30年以上経ちますが、公立幼稚園を取り巻く環境は大きく変わっています。特に園児数の激減や保護者のニーズの多様化といったところが大きな変化です。三田市でも、再編計画に基づいて幼稚園の再編統合が進んでいます。みつば幼稚園は、昨年度の4月に広野、本庄、藍幼稚園の3つの幼稚園を再編統合し、認定こども園としてさまざまな保育サービスを充実させ、朝7時から夜7時まで保育を行う園として運営しています。施設の仕組みや形は変わったとしても、園で子どもが無我夢中で遊び、その中で友だちとの関わり方を学んだり、子ども自身で考え、「これってこういうことか」と気づいたりするなど、直接的な経験を通して学んでいくのが幼児教育だと思います。幼児の学びや成長を点数化、数値化することは難しいのですが、子どもが心を動かして「やってみよう」や「もっとこうしたい」と物事に取り組んでいる姿を通して子どもの心や体の成長を見取ることができます。遊びを通して人との関わり方を学んだり、子ども自身で何かに気づいたりと主体的に動く力など生きる力の基礎を大切に育んでいきたいと思います。<br>　私は再編統合したこども園に勤めています。やはり集団の中で子どもが育つことは大事だと感じています。少人数は少人数の中で、先生方も工夫されてい |

| | |
|---|---|
| | るわけですが、どうしても活動が制限されてしまうこともあります。たくさんの友だちからの刺激によって子どもの興味や関心が広がり育ちにつながるということは大切だと感じています。三田市には私立の施設もありますし、幼稚園、認定こども園、保育所という施設間での違いもあると思うのですが、どこの施設でも質の高い教育や保育を提供できるよう横の連携を大切にしていかないといけないと思っています。また、幼児期の教育から小学校への円滑な接続も重要です。小学校に行ってゼロからのスタートではなく、幼稚園で学んできたことが土台となって、小学校の教育に繋がっていくというところで、架け橋カリキュラムによる縦の連携を深めていくことが、今後の課題になるかと思います。 |
| 委員長 | 子どもたちには幼児教育、そして初等教育でも特に低学年などでは体験を十分にさせることは大事だと強く思っています。「経験と知識創造」（寺西和子1992）という論文があるのですが、今のお話はまさに通ずるものがあると思います。三田市ではこれまでもされていますが、横の連携だけでなく、縦の連携も大事だと思います。そういった特色が出るような形が作れれば良いのかと思いました。 |
| 委員 | 私は生まれてから三田市内で、三田の教育を受けて育ち、今は三田市内で看護師として働いています。思い出として、小学校や中学校で学んできたことが楽しかった思い出があります。普段、教育に関わることも少なく、子どももいないのですが、一市民として市内の教育に関わることができればと思っています。私は市内でも田舎の方に住んでおり、少人数で教育を受けてきた方かと思います。その中で、比較的少人数だからこそ、主体的に取り組めた部分も多かったと思います。今の子どもたちも、私の母校の小学校などはとても少なくなっていると思いますが、他の学年や地域と関わる機会は多かったと思います。その地域との繋がりも今思えばとても良かったと思うので、地域との繋がりは大切にしていきたいです。<br>教育に関して思うことは、子どもたちが主体的に成長できるように支援することが大事だと思うと同時に、先生方の労働環境も改善していく必要があるかと思うので、課題は多くあるかと思いますが、未来ある三田になればと思います。 |
| 委員長 | 看護師が患者とどのように関わるかというのは、様々なレベルがあります。学校や幼稚園の先生方が子どもとどう関わるかというときに、看護師の教育というものが学校教育に共通して活かせることがあるのではないかと思っています。看護師教育の本を読んだこともあり、看護師の視点からの発言を期待しています。 |
| 委員 | 私は、教育委員会の評価委員として三田市からお声掛けいただいたことをき |

| | |
|---|---|
| | っかけに、本委員会にも参加させていただいています。私に一番求められていることは、学校支援ボランティアについてかと思います。私は現在、三田市の狭間中学校区の中にある小学校でボランティアコーディネーターをしています。児童数は500から550人の小学校に対して、授業支援では年間延べ500から600人のボランティアを依頼いただいています。三田市には学校支援ボランティアという登録制度がありますので、そこに登録している方＝ボランティア保険に入っている方です。三田市にも名簿登録されており、事故などで賠償が発生した場合は、市の予算での保険で対応していただける仕組みです。通常はボランティアをするとなると1人500円のボランティア保険がかかるのですが、三田市ではこれをすべて市費で負担しています。そのため、小学校の先生から手助けしてほしいとの依頼を受けて、名簿登録されている方に学校に来ていただくということをしています。今の小学校でPTA会長をした後に、実際にボランティアを入れようとした際に、ただ来るだけだと危ないと言われました。ボランティアがせっかく先生方のお手伝いをしたい、子どもたちの安全安心を守りたいと言っているにも関わらず、ボランティア自身がトラブルに巻き込まれてしまい、全国各地でボランティアが訴訟を受けるということが20年ほど前に起こりましたので、必ずボランティア保険に入っていただき、ボランティア自身の安全も確保をした上で学校に関わっていただきたいと考えています。ただ、携わっていただく中では先生とのトラブルや子どもたちとの関わり方が分からないということもありますので、担当する小学校では春になると1年生の保護者や新しく仕事や環境が変わった方が登録をして、その方々に1年生の給食の準備として30分だけお手伝いに来てくださいというスモールステップから始めると、1年生の保護者などは特にたくさんお手伝いに来てくださいます。学校側にお願いをしているのは、お父さんやお母さんが手伝いに来たとは絶対に言わないでくださいということです。地域の方がお手伝いに来ていると伝えていただきます。実際に、お父さんやお母さんではない地域の方もたくさんいます。数十年前であればお父さん、お母さんが当たり前でしたが、今では卒業生の保護者や卒業生、高校生、大学生が単身で参加しています。大学と連携ということもありますが、担当する小学校の場合は地域で育った子どもたちがボランティアコーディネーターや学校に問い合わせをし、ボランティア登録をしてくださいます。<br>　これを通じてボランティアを育てていくのですが、その中には看護師などさまざまなバックボーンがある方がいるのですが、特に特徴的な部分としては、音楽会に向けて楽器練習の支援が入っているのですが、趣味で楽器をしている方や吹奏楽部に入っていた、音楽サークルに入っていた、声楽をやっているプロの方もボランティアで来てくれて、子どもたちの楽器や演奏の支援に入ります。本来は先生が1クラス30人くらいに一斉指導をしながら楽器の練習をするのですが、先生がクラスの半分である 15 人の合唱を指導している間、残りの 15 人が個別に楽器の練習をし、ボランティアに指導をしていただけます。1人でも2人で |

| | |
|---|---|
| | も多く来てくれると、大人の目がある中で分からなかったら助けてもらえるという経験を積むことができます。子どもから大人に「自分はこういうことが分からない、できない」ということを尋ねたり、一緒に考えたりすることができます。そうすると、先生が見えないところで頑張っている子どもたちの様子を、ボランティアが先生にフィードバックします。それによって、「実はこの子が、このように困っていました。」「楽譜を変更しましょう」など、コーディネーターにボランティアの意見が集約され、先生と打ち合わせをすることが可能となります。音楽会当日についても、地域運営委員会にボランティアが入っていますが、音楽会自体もボランティアが全面に入ります。子どもたちの出番の際には楽器の配置を変える必要がありますが、事前の打ち合わせで図面もできているため、ボランティアによって配置することができます。先生たちは配置が完成したところに子どもたちと入場をして、子どもたちは緊張感を感じながら演奏します。また楽器を音楽室から体育館に運ぶのも、体育館から音楽室に戻すのも、５、６年生が行いますが、これにもボランティアが 10 人くらいお越しいただけます。これに来てくださる方は楽器が壊れてほしくないため、必死に楽器を守りながら運んでくださいます。自分たちのできること、やりたいことをできるという登録制度を取っているため、地域の学校と一緒に子どもたちの安心と安全を守っていこうということで、動いている状況が 20 年ほど続いています。それは自分が関わっている学校ではできますが、例えば規模の大きい学校であったり、地域の考え方であったり、関わり方は各々の学校で異なります。私はニュータウンの方ですので、外から入ってきた方がほとんどという状況で何かを立ち上げることは比較的簡単にできます。それを継続することが難しいですが、模索して取り組んでいる状況です。恐らく、そこが私に一番求められていることで、先生と協力をして子どもたちを育んでいくことは、先生方の働き方改革にも、ボランティアが一緒に支えていくことで繋がっていきます。先生たちもそれを分かっていて、一緒に相談してくれているという関係がありますので、今後も続けていきたいと思っています。<br>　私は三田市出身ではなく福島県の育ちで、福島大学で幼児教育について学びました。その後会社員をした後にご縁があり、重度重複障害の学校に勤めましたが、特別支援教育については全く専門性がありませんでした。そのため、宮城教育大学で特別支援教育や聴覚障害児教育について学びました。その後、筑波大学大学院で聴覚障害の子どもの発育や育った後どうなるのか、手話をどの程度授業に織り込めば子どもたちの理解度が上がるのかという研究をしていました。手元の資料の 10 ページに私の夫の写真が載っていまして、これだけ手話の研究をしてきた私ですが、夫は全盲です。視覚障害者で盲導犬を使っており、三田市内の小中学校で盲導犬の啓発を行っています。三田育ちの夫は大学生のとき事故で全盲になりました。子どもは三田の中学校に通っていたのですが、下の子が在籍中に、別室ができ上ったときに別室で育ちました。上の子は大学で教育学を学んでいます。三田市に来てからは中学校の特別支援学級 |

| | |
|---|---|
| | で指導員をしていました。西日本の大学に行っていないため、学識委員の先生方の論文は改めて読ませていただきたいと思います。 |
| 委員長 | 地域の方が関わってくださらないため、教育課程が十分うまくできていないところが実際には多くあります。中教審でもそのようなことが話題となっており、ボランティアの方の関わりは本当に重要だと思っています。ぜひ多角的なご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。 |
| 委員 | 私は、ひょうご子どもと家庭福祉財団の代表理事をしています。三田ではかるがも園という障害のある子どもたちの幼稚園の運営と、卒園児を中心とした発達支援センターの運営をさせていただいています。そのため、いつも先生方にはお世話になっています。子どもたちの保育には直接は関わっていないのですが、みんな私のことを友だちと思っていつも遊びに来てくれます。元々は神戸YMCAという団体で、専門学校や英語教育、ホテルマナーの教育、子どもたちのキャンプ場の運営を仕事としてきました。最後の 10 年くらいはその団体で組織全体の経営をしながら、現場を離れたくないので、授業を 10 時間ほど持っていました。YMCAの特色としては、大学生のボランティアが 500 人ほど神戸YMCAだけでおり、その卒業生の 40%ほどが幼稚園から大学までの教員になりますので、その方々とのネットワークが今でも続いていることが私の人生の喜びです。子どものキャンプの仕事は私が学生ボランティアのときから、YMCAの 75 年前からあるキャンプ場でさせていただいていて、100 人ほどの子どもたちと 40 日間、夏休み中ずっといましたが、体験的に子どもは子どもの中で育っていたのだということを見させていただきました。現在の職場では、言語聴覚士やリハビリスタッフ、保育士らが60人ほど正職員でいるのですが、彼らがする個別療育だけではなく、集団の中で友だちができ、友だちに声をかけることで言葉が出るようになった、また二語連結といって2つの単語を連続して繋いで使えるようになったのも友だちができたことがきっかけという子もおり、たくさんの子どもたちができる限り一緒になれるような教育環境が必要だと思っています。<br>30 年ほど前に三田でYMCAを立ち上げる担当として神戸YMCAから送られてきまして、1年間は地元の長田から通っていましたが、震災の3か月前から三田に住んでいました。すぐにまた人事異動で神戸に戻されたのですが、三田に住み続けています。今も毎日神戸に通っていますが、三田の良さは自然の良さ、川遊びが平気でできる川があるのは神戸近郊でここだけだと思いますし、海がないことは残念ですが、この広いエリアで子どもたちがのびのびと遊ぶことができれば良いと思います。一方で、子どもたち同士の関わりがしづらいのも、この市の広さと人口の問題かと思います。こども食堂にしても子どもだけで通っていける範囲は狭いです。神戸でもユースプラザというものをYMCAで2つ運営していましたが、神戸は公共交通機関が行き届いていますので、簡単に行くこと |

| | |
|---|---|
| | ができます。その中で、やはり持ちにくいのが「多様性」だと思います。よくリーダーたちに言うのですが、different という「違い」と、mistake という「間違い」では、日本語では「ま」がつくかつかないかですが、根本的には違うという言葉になります。日本人がどうしても違っていたら間違っていると思いがちなところは、多様性のなさからだと思います。色んな違いのある人たちが、たくさんのインクルーシブ教育の中で共存していくことができれば、子どもたちはその中でたくさんのことを学ぶのかと思います。今は少子化の真っただ中ですが、ぜひそういうことをシステムとして実現していきたいと思います。私自身が三田市で直面しているのが、女性の就業率の高さです 90%の女性が三田市で就業されていて、そのうち半分がフルタイムという調査結果を拝見しました。かるがも園でも 20 数年続いてきた保護者会が昨年からなくなりました。そういった現実を見る中で、やはり働くことが大切ですので、その状態に対して我々がどのように自分たちの在り方を変えていけるかということが、1 つのチャレンジだと思っています。 |
| 委員長 | 私も日本キャンプ協会のキャンプディレクターの一員ということもあり、キャンプをやっていらっしゃった方は特に信頼しています。 |
| 副委員長 | 先日論文を読んでいて、北海道の富良野の小学校では昆虫採集をしたことがある子どもたちが 50 年前にはほとんど 100%だったのに対し、10 年ごとに 10%ずつ下がって今や 20～30%まで下がってしまっているとのことです。それで、私の周りの学生にもプラモデルなど作ったことがあるか聞いてみると、ほとんど全員ないとのことでした。私が子どもの頃はラジオの工作があって「プログラミングをしてみよう」というものがあり、自分でゲームのようなものを作ったりしていましたが、意外と最近の子どもはコンピューターなどの情報機器は使う反面、「自分でプログラミングをやってみよう」「ラジオを作ってみよう」ということが減っていることが危機的な状況だと感じています。スキーをしたことがある子も「なんでスキーをしたことがあるの？」と聞くと、「おじいちゃんが連れて行ってくれたから」と言います。他の子たちは免許もない、スノーボードもやっていないと、こういった経験の少ない子どもたちは誰が作っているのかというと、その子たちの責任ではなく、自分たちのこととして考えた方が良いのだろうと思います。私は近所の池で学校に行く前に魚釣りをして、水槽を隠して、学校から帰ってまた釣りをしてということをしていました。北海道の旭川や富良野のようなところは「熊が出るから行くな」みたいなこともある状況で、かえって自然が遠いという状況ではあると思います。友だちが一緒に空き地で遊ぶ、その延長線上に雑木林があるということがアドバンテージですし、そういった地域がないわけではないのですが、「この虫は何だろう」ということを思ったときにすぐに聞くことができる環境があるということは稀有で、いかに私たちがその経験格差を解消していくのか、それを行うには手伝う大人の数が必要だと思います。それ自体が先ほどお |

| | |
|---|---|
| | 話にあったようなお父さん、お母さんのどちらも仕事をすると考えるとなかなか難しく、学校の先生も忙しい。ではこういったことを質問したいといったときに相談できる相手がおらず、どう解決すれば良いのでしょうか。<br>　私自身としてはもう1つ、使えるものは使っていく。例えば人工知能を使って、汎用の人工知能を子どもたちに丸投げするのではなく、三田モデルのサポートシステムを作ります。そういったAIエージェントのようなものを考えていき、さらに三田市で作られたものだということを子どもたちが自覚することで、自分も将来作ってみたいと思えるような流れを作れれば、結果的に学校も変わり、仕事が生まれていくと思います。なぜかというと、私が今ベトナムの小学校の教育育成の会でお手伝いさせてもらっていると、大きな経験ギャップがあります。一方で、私たちが子どもの頃のような経験の豊かさがあり、先ほどの移動の問題では、実はベトナムは、ライドシェアが発展しており、子どもも大人もお年寄りも好きなときにスマホ 1 つで好きなところに行けます。現金を持たせると危ないですが、スマホ決済になっていることでそのような問題もありません。そういう意味では、日本の教育改革を考える際に、日本国内の状況と、日本以外の近隣諸国でどのように解決しているのかということも必要です。日本の教育を伝えると小学校で理科実験をしていることや、図画工作をしていることを話すと驚かれます。「子どもたちに電動ノコギリで何かをさせることに親は反対しないですか？」「『そんなことよりももっと勉強させてほしい』と言われないですか？」と聞かれることがあります。なぜ反対しないかと考えると、私たち自身がそういうことをして楽しかった、ワクワクした経験があるから、みんなが共有できているということを伝えると、「日本はやはり厚みがあるね」と言ってくださることが多いです。守るべきことというのは私たち自身、当たり前になり過ぎて気づかないこともあるかもしれません。それをもう一度共有し、かつバージョンアップすることで、少しずつ未来が切り開けるのではないかと思っています。三田市はそういった意味で、本当にチャンスが多いと思っています。 |
| 委員長 | 　ありがとうございます。今後の方向性を含めてお話いただいたかと思います。 |
| ９．　議事 | |
| 委員長 | 　それでは、「議事」に移ります。議事に入ります前に、この検討委員会で議事録を作成することになると思いますが、その発言者の氏名等の表記について確認しておくことが必要のようです。第３期計画の議論の際には「委員長、副委員長、委員」と、肩書のみの表記でありましたが、発言者の氏名まで表記するのか、３期計画と同じように肩書表記のみでいくのか。皆さんにご確認した上で、議事を進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。特に異論がなければ、発言者まで特定する必要はないかと思いますので、前回同様の肩書のみ表記する議事録記載の方法で、事務局にお願いしたいと思いますがいかがでしょう |

| | |
|---|---|
| | か。<br><br>（異論なし） |
| 委員長 | それでは、次第に従いまして、議事に移りたいと思います。まず、（1）「計画の基本的事項」についてご説明いただきます。事務局お願いします。 |
| 事務局 | （資料1～5について説明）<br>（1）計画の基本的事項　資料1<br>（2）教育を取り巻く国や県の動向　資料2<br>（3）三田市の現状　資料3・資料4<br>（4）アンケート結果　資料5 |
| 委員長 | 資料1から5まで、次第では（4）まであわせて説明いただきました。何かご質問はございますでしょうか？アンケートの結果などは興味深いものも出ており、さらに集計を進めていただくと、見えてくるものがあるのではないかと思います。本日はそれぞれのお立場からフリートークでお話いただき、色んなことが分かって、今後も楽しい会になるのではないかと感じています。ベースには当然、子どもたちの学力や冒頭にありました中教審の議論を踏まえた子どもたちの人生の舵取りをする力についてというところかと思います。これをどう三田市独自の形で、しかも実効性のある形にし、皆さんに伝えられるかということを目指していきたいと思います。<br>また多様な意見が出た中で、学校の中での連携や地域の連携など、さまざまなところの連携が大切になるというご意見をたくさんいただきました。またDE＆Iや多様性についても、人口が減少する中でより一層重要になるのではないか、子どもの体験が減っているのではないかという意見がありました。特に幼児教育において、体験をどう経験に昇華させるのかという話もありました。こういったことをうまく解決しなければいけない一方で、教職員の働き方改革の話もあり、そういったことにも目を配りながら、副委員長からはテクノロジーを活用することで解決していくことが可能ではないかというお話もありました。それを三田独自のモデルとして提案できれば、最も良いのだろうと思っています。<br>本日の予定は以上ですが、委員のみなさまには長時間にわたり、ご審議いただき、ありがとうございました。<br><br>事務局、特に何かございませんか。特にないようですので、本日の審議はこれをもちまして、終了いたします。ありがとうございました。それでは、これ以降の進行につきましては、事務局にお返しします。 |

| | |
|---|---|
| 10.　次回予定 | |
| 事務局（司会） | 委員長、ありがとうございました。委員の皆さまも長時間にわたり、ありがとうございました。次第の「次回予定」でございますが、令和8年3月3日（火）の 10:00 からということで調整いただき、この場所でお願いできればと考えております。詳細につきましては、後日、文書送付させていただきます。 |
| 11.　閉会 | |
| 事務局（司会）<br><br>山本部長 | 最後に閉会にあたり、山本学校教育部長から一言、ごあいさつさせていただきます。<br><br>学校教育部長の山本です。本日は長時間ありがとうございました。どうしても堅苦しくなってしまう検討委員会の最初に、アイスブレイクができればという事務局の想いを委員長にもお伝えしながら、フリートークから始めていただいた次第です。第1回目の会議からさまざまなご意見をいただき、共有できたのかと思っています。今後も答申いただくまで何度か足を運んでいただくことになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。<br><br>（閉会） |